

人工授精技術を取り入れたモデル的養豚経営 ～ 家族で育てる「我が子」豚～

宮崎県高原町 曾山 文彦・照代

地域の概要

畜産農家戸数 592戸
 肉用牛繁殖 503戸
 肉用牛肥育 38戸
 酪農 16戸
 養豚 16戸



農作物	産出額 (1,000万円)	構成比 (%)
肉用牛	281	41.0%
ブロイラー	93	13.6%
野菜	73	10.7%
豚	66	9.6%
米	50	7.3%
酪農	49	7.2%
工芸農作物	16	2.3%
鶏卵	14	2.0%
その他	12	1.8%
花き	9	1.3%
合計	685	100

平成18年生産農業所得統計より引用

経営の概要

労働力の構成(3名)

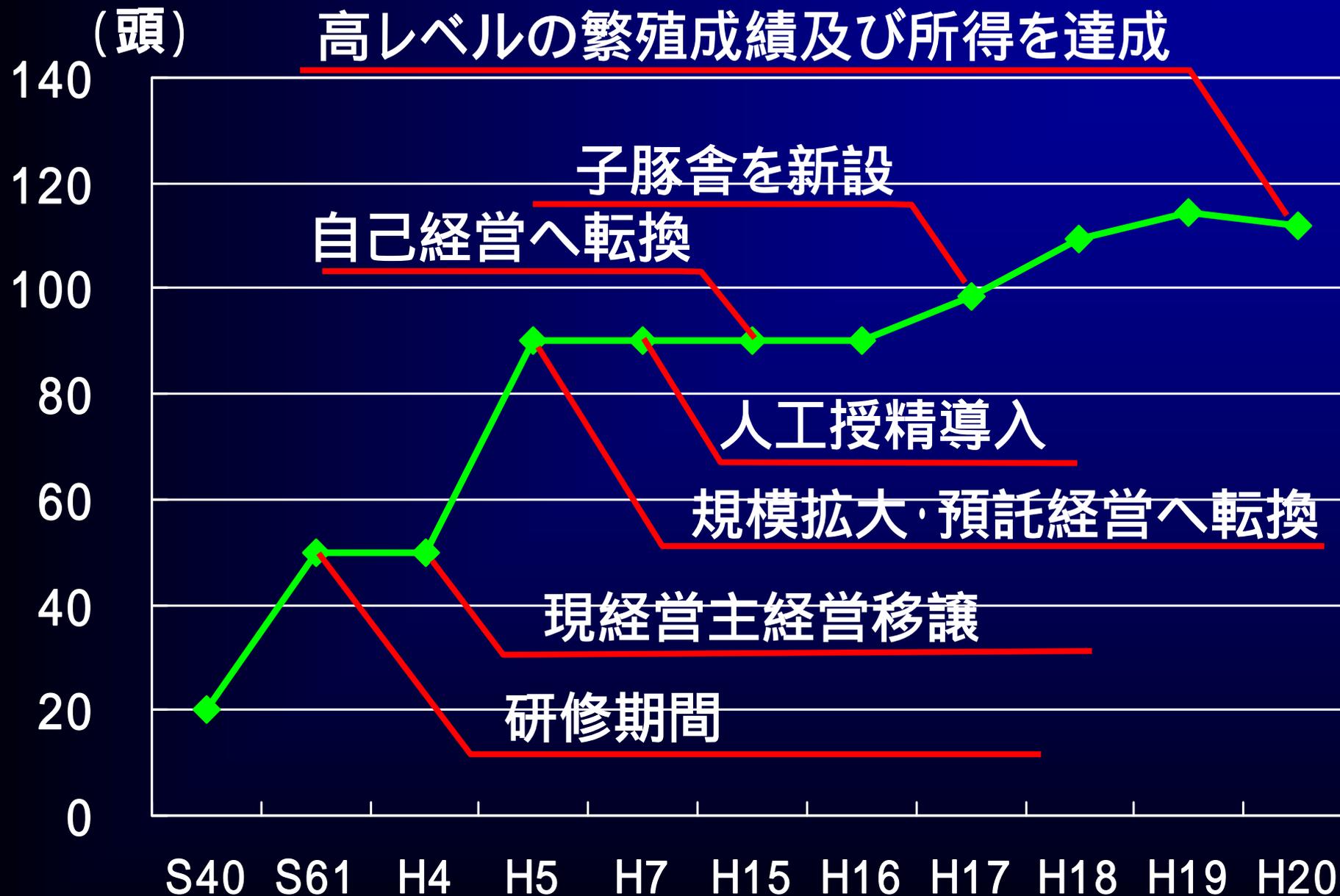
構成員	従事日数	作業担当
経営主	360(8h/日)	種豚、交配、子豚舎、尿処理
妻	300(5h/日)	分娩舎、ふん搬出、たい肥舎
母	200(3h/日)	分娩舎

常時飼養及び出荷状況

区分	17年	18年	19年	20年
種雌豚	98.7	109.5	114.3	119.9
種雄豚	4.0	4.3	3.8	3.7
子豚・肉豚	565	609.7	680.3	695
子豚出荷	2,420	2,510	2,870	2,931
肉豚出荷	21	11	18	26

経営規模と経営形態の変遷

高レベルの繁殖成績及び所得を達成



AI・製造の資材器具

精液採取前の準備



抗生剤



(種雄豚 3 頭: 週 1 回採取)

精液の混合)



希釈液の準備

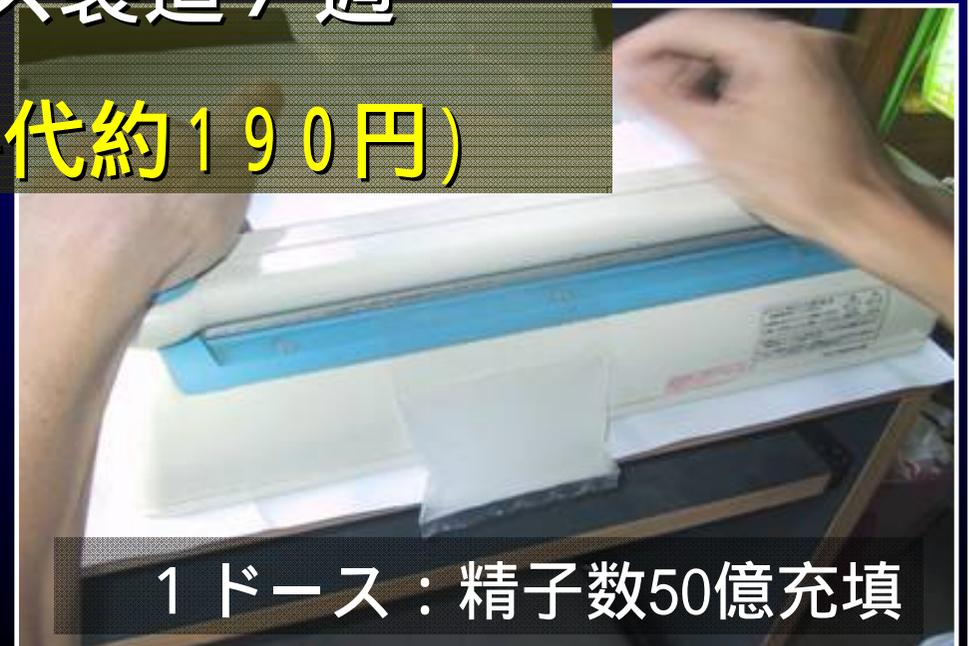


AI・製造工程



約30ドース製造/週

(1ドース:材料代約190円)



飼養環境

記録記帳の実践による個体管理の徹底

種雌豚の健康(ボディコンディション)管理

個体毎のステージに応じた給与管理

計画的な更新及び淘汰

信頼できる管理獣医師との連携

指導を遵守した衛生管理

もと豚の十分な馴致期間(3ヶ月)

生産技術分析の委託(毎月報告)

母豚の管理

No. 65	
名号 SPF	品種
平成 年 月 日生	産
① 2006.3.8 10001	
② 2006.3.8 10002	
③ 2006.3.8 10003	
④ 2006.3.8 10004	
⑤ 2006.3.8 10005	
⑥ 2006.3.8 10006	
⑦ 2006.3.8 10007	
⑧ 2006.3.8 10008	
⑨ 2006.3.8 10009	
⑩ 2006.3.8 10010	
⑪ 2006.3.8 10011	
⑫ 2006.3.8 10012	
⑬ 2006.3.8 10013	
⑭ 2006.3.8 10014	
⑮ 2006.3.8 10015	
⑯ 2006.3.8 10016	
⑰ 2006.3.8 10017	
⑱ 2006.3.8 10018	
⑲ 2006.3.8 10019	
⑳ 2006.3.8 10020	
㉑ 2006.3.8 10021	
㉒ 2006.3.8 10022	
㉓ 2006.3.8 10023	
㉔ 2006.3.8 10024	
㉕ 2006.3.8 10025	
㉖ 2006.3.8 10026	
㉗ 2006.3.8 10027	
㉘ 2006.3.8 10028	
㉙ 2006.3.8 10029	
㉚ 2006.3.8 10030	
㉛ 2006.3.8 10031	
㉜ 2006.3.8 10032	
㉝ 2006.3.8 10033	
㉞ 2006.3.8 10034	
㉟ 2006.3.8 10035	
㊱ 2006.3.8 10036	
㊲ 2006.3.8 10037	
㊳ 2006.3.8 10038	
㊴ 2006.3.8 10039	
㊵ 2006.3.8 10040	
㊶ 2006.3.8 10041	
㊷ 2006.3.8 10042	
㊸ 2006.3.8 10043	
㊹ 2006.3.8 10044	
㊺ 2006.3.8 10045	
㊻ 2006.3.8 10046	
㊼ 2006.3.8 10047	
㊽ 2006.3.8 10048	
㊾ 2006.3.8 10049	
㊿ 2006.3.8 10050	

個体管理版
(母豚カルテ)

年間季節を問わずボディコンディションの管理
妊娠期は手給餌で豚を観察し、給与量を調整



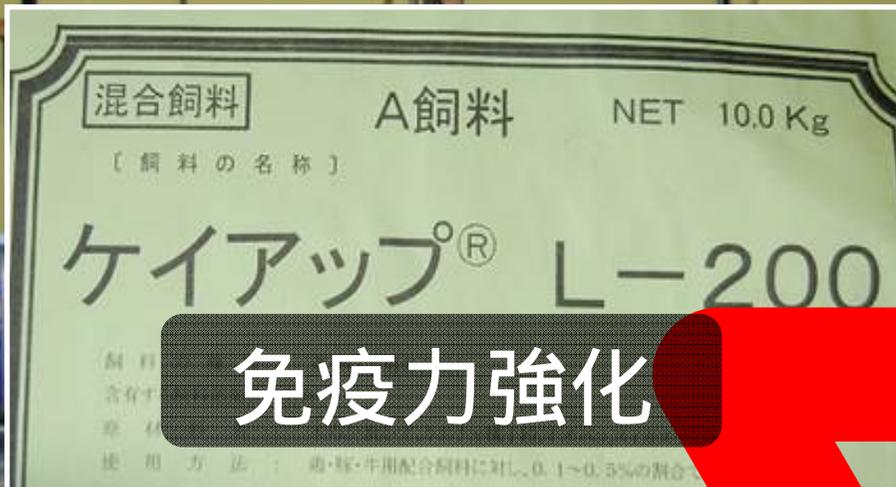
授乳期の管理

授乳期間は平均23日

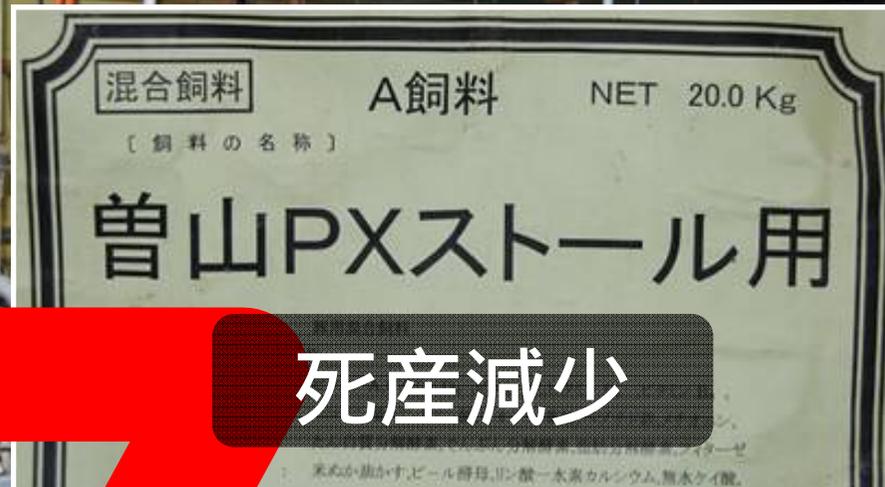
離乳時は2～3頭ずつ交配舎へ移動



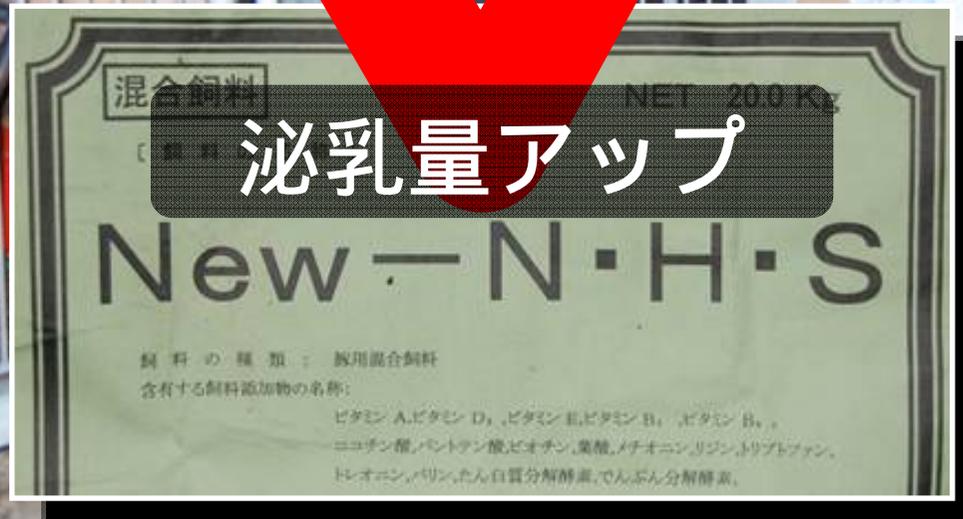
3種類の独自添加剤を使用



免疫力強化



死産減少



泌乳量アップ

分娩時にへその緒が切れにくい



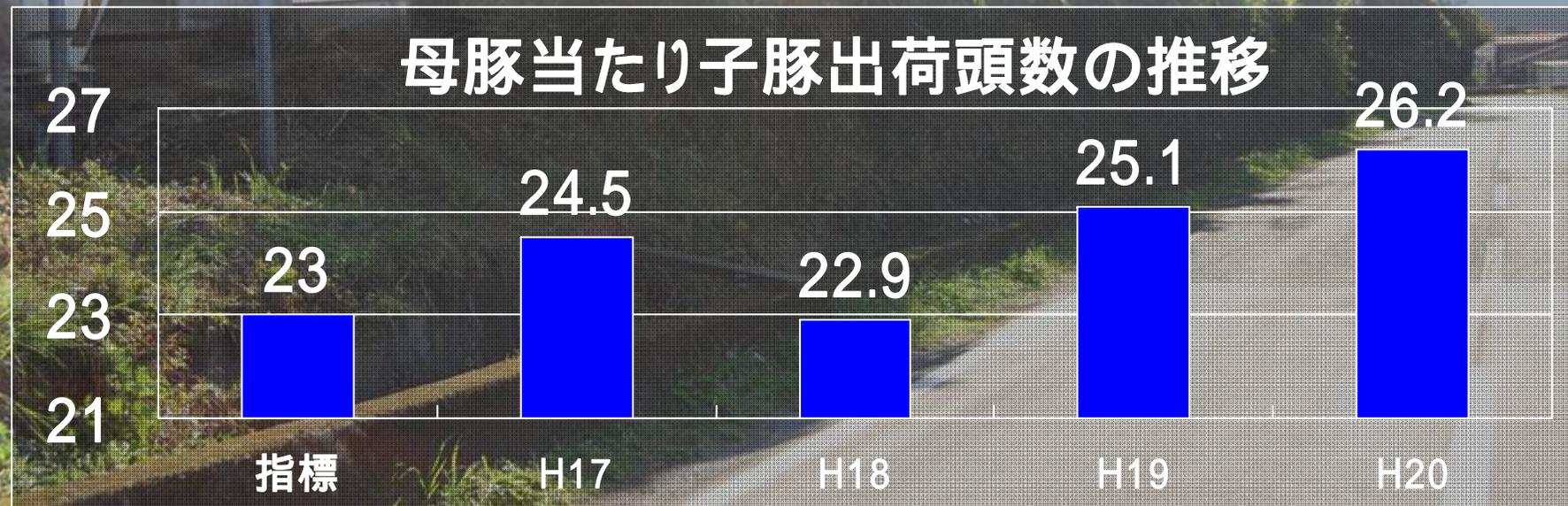
へその緒が死産防止につながる



へその緒が乾いた状態

繁殖成績

母豚の飼養管理及び哺育子豚管理の徹底により
優れた繁殖成績を維持(育成率91.4%)



分娩時の看護



子豚には初乳を十分飲ませる。
(必要と判断した場合には、分娩後(24時間以内)に陣痛促進剤を投与することで誘発される初乳を飲ませる。)

分娩状態は個体管理板に記録

未熟子豚の人口哺乳

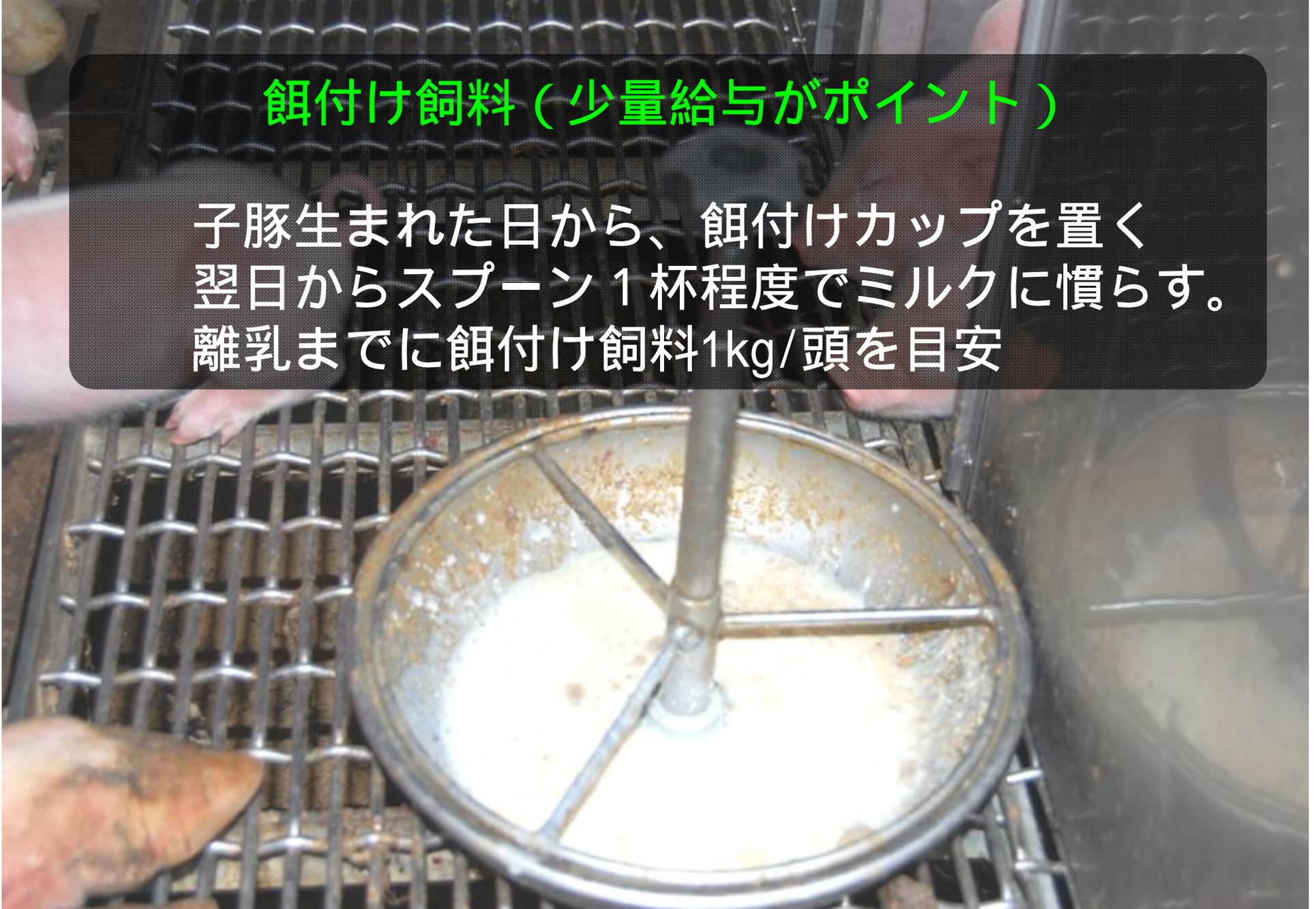
生まれた子豚は全て愛情を持って育てる



人工乳の餌付け

餌付け飼料（少量給与がポイント）

子豚生まれた日から、餌付けカップを置く
翌日からスプーン1杯程度でミルクに慣らす。
離乳までに餌付け飼料1kg/頭を目安



離乳期・子豚の移動

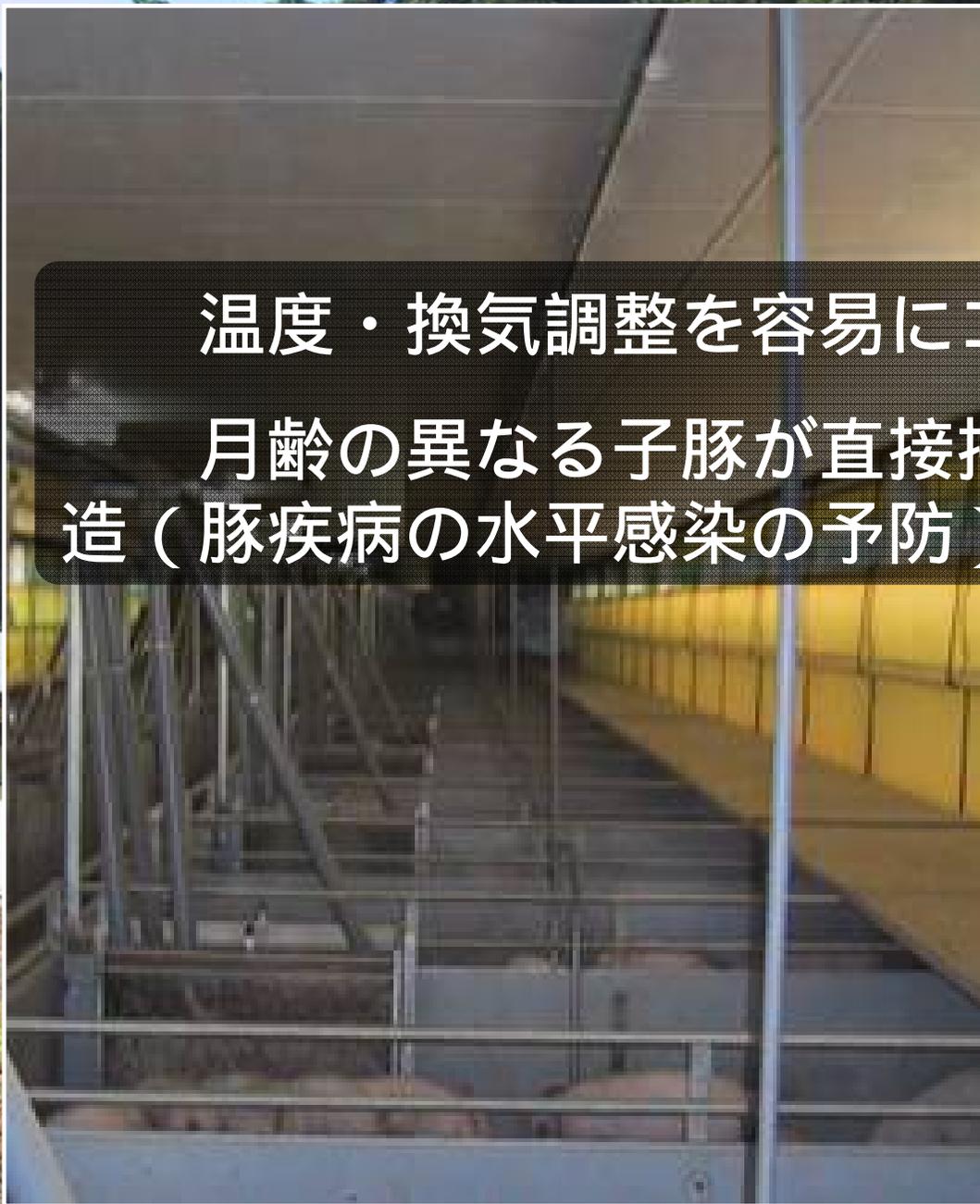
風が子豚に直接あたらないよう工夫
生後約30日齢で子豚舎に移動



子豚舎の工夫及び効果

温度・換気調整を容易にコントロール

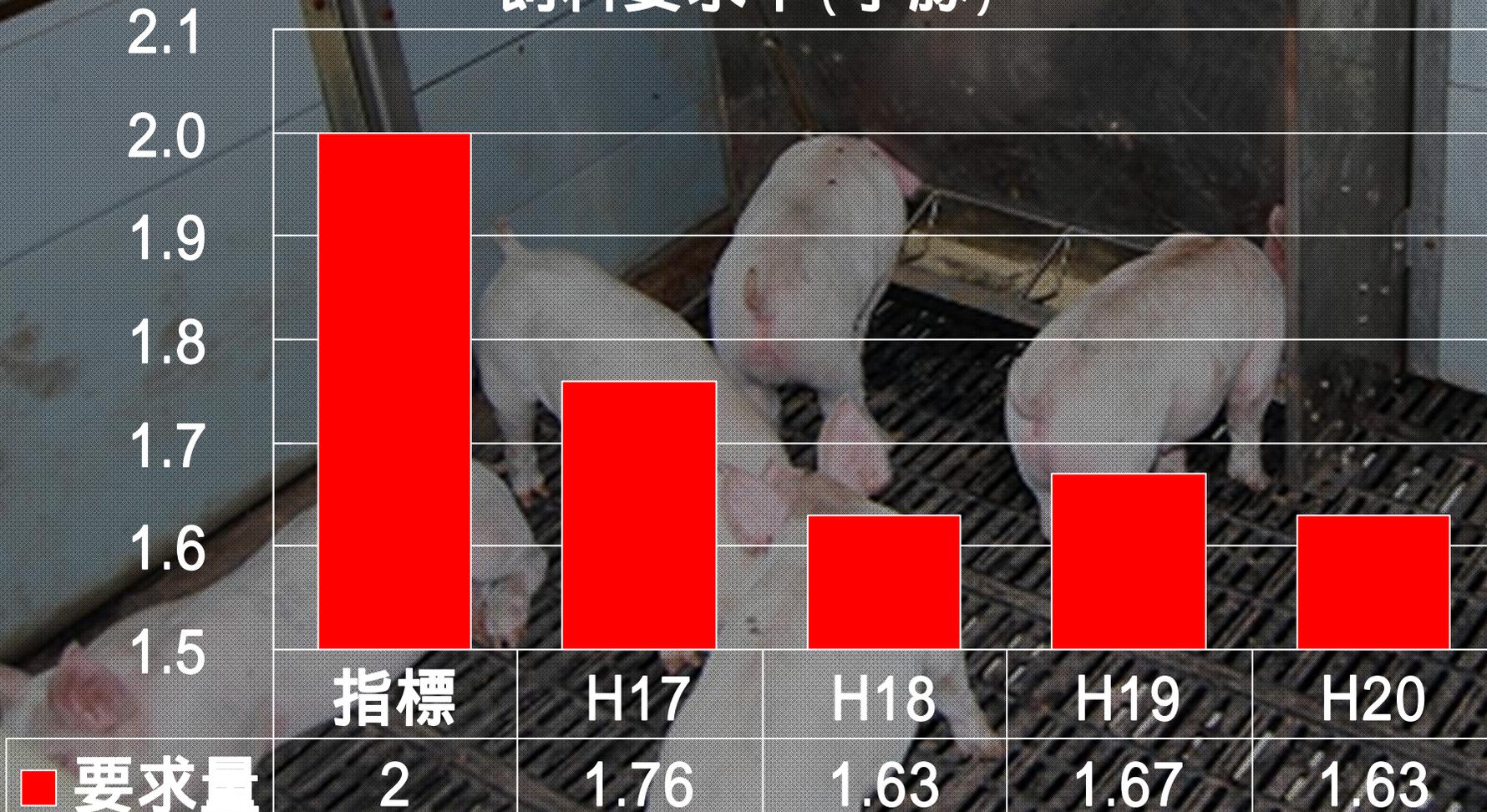
月齢の異なる子豚が直接接触できない豚舎構造（豚疾病の水平感染の予防）



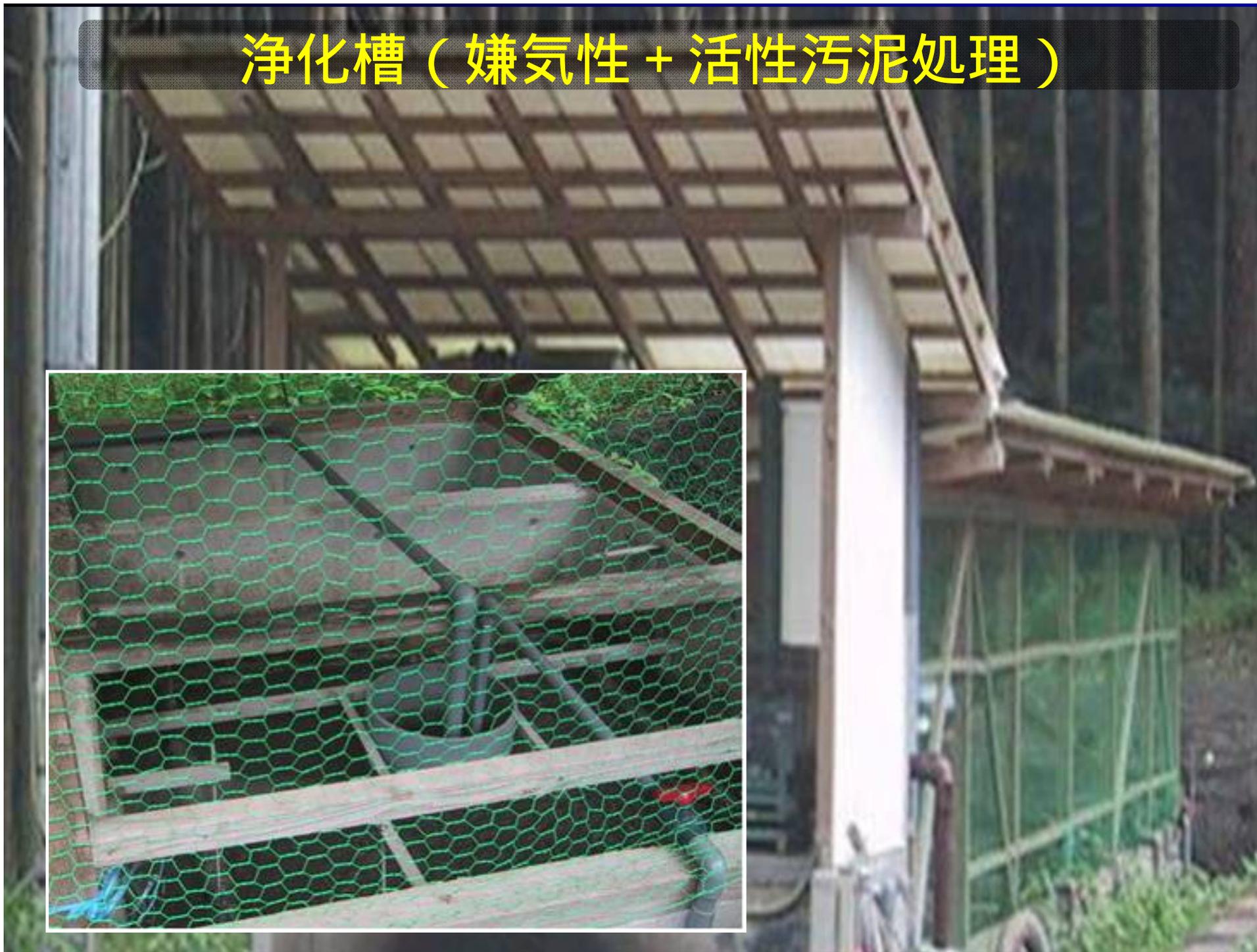
子豚の管理

離乳後30日齢(7kg)から出荷体重35kgまで飼育。
(発育マニュアルに即した発育を実践)

飼料要求率(子豚)



浄化槽（嫌気性 + 活性汚泥処理）



堆肥舎（スクープ方式）

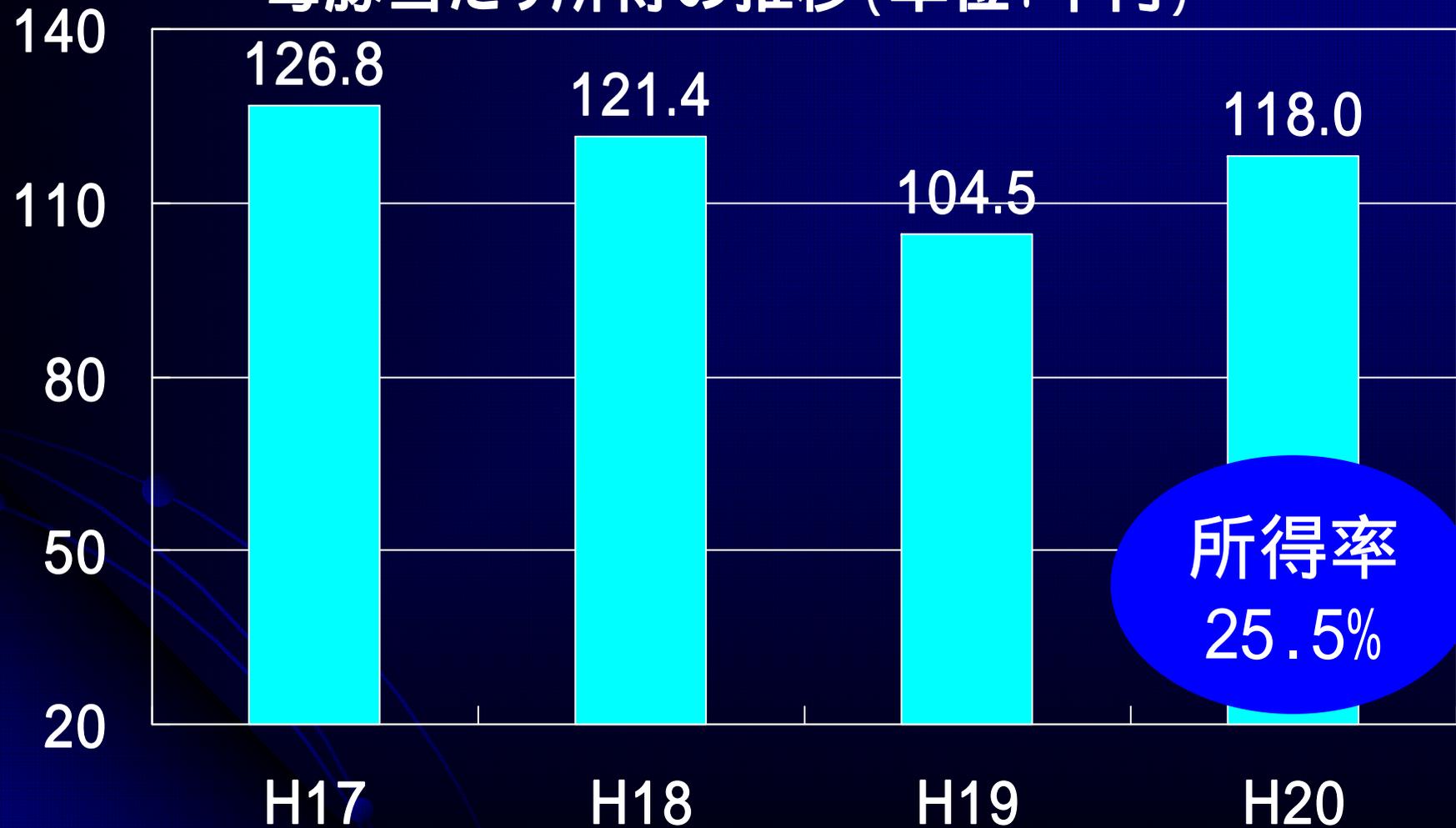


内容	割合	用途・利用先等	条件等
販売	14%	家庭菜園・耕種農家	一般家庭
無償譲渡	86%	耕種農家	たい肥利用組合

収益性

目標(10万円/頭)を上回る所得を維持

母豚当たり所得の推移(単位:千円)



所得率
25.5%

まとめ

技術要因

個体管理(記録記帳)
の徹底
人工授精の導入
管理獣医師との連携
分娩看護の徹底

経営管理

優れた経営感覚
経営診断(畜産協会)
の活用
家族の理解と協力

生産性(分娩率・育成率・事故率・飼料効率)の向上

極めて収益性の高い経営(所得率25.5%)の実現

「注聴ありがとうございます」

